●書学書道史学会
会報
第40号

令和3年(2021)1月15日発行
編集・発行
書学書道史学会
会報編集委員会
〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋1-1-1
パレスサイドビル9F
(株)毎日学術フォーラム内
TEL (03)6267-4550
FAX (03)6267-4555
MAIL maf-syogaku@mynavi.jp

将来構想委員会（仮称）設置に向けて

河内　利治

令和元年度に、本学会は30周年を迎えました。そして昨年4月からは、新役員第16期がスタートいたしました。折しも新型コロナウイルスが猛威をふるいはじめ、世界中の教育研究機関のあり方が根本から問われているように見えます。なかでも大学は教育機関としてオンライン授業やオンデマンド授業に追われ、学生も教員も大学に行かなくても授業運営が可能な状態が続いています。「教育の質」の変革が求められているように思えてなりません。一般企業もテレワークで行われるようになってきていますし、書学書道史研究者および書家の集合体である本学会も、社会的存在意義を問われることになりましょう。

このような将来不透明な現代社会にあって、本学会の新たな仕組みを構想するため、このほど国内・国際・学術・研究・編集・事務の6局長による「将来構想委員会（仮称）ワーキンググループ（答申）」を取りまとめ、中村伸夫理事長に提出し、常任理事会（6月）で検討し、理事会（10月）でも概要を報告いたしましたので、この会報にも報告させていただきます。

将来構想委員会（仮称）ワーキンググループ答申（案）

新型コロナウイルス感染症の拡大により、本学会が本年度大会・総会を開催できず、来年度に延期したため、「研究助成金制度」採択者に課す口頭発表など、学会の諸行事も開催延期または中止となったことは周知の通りである。

本学会でも大会開催のあり方、常任理事会・理事会などの学会運営、上記「研究助成金制度」採択者に課す口頭発表等をオンラインで実施する方策、さらには会則第17条に示される6局の職掌を実態に合わせる会則の見直しを検討すべき時期が到来していると考えられる。今般、これらを検討すべく研究局および「将来構想委員会（仮称）」ワーキンググループにおいてメールによる意見交換を行い、ここに各位の提案意見を集約した。

①ウィズコロナ時代に即した新しい学会のあり方を検討する「将来構想委員会（仮称）」を立ち上げる。

②「将来構想委員会（仮称）」を親委員会とし、小委員会として
　A「大会実施計画ワーキンググループ（仮称）」
　B「研究活動推進ワーキンググループ（仮称）」
　C「会則第17条検討ワーキンググループ（仮称）」
を置く。

③各ワーキンググループは連動させ、将来構想委員会（仮称）および各ワーキンググループの委員長・委員は、若手の常任理事・理事も視野に入れながら、理事長が委嘱する。

上記内容を6名の局長連名による「将来構想委員会（仮称）ワーキンググループ答申（案）」として、理事長にご報告もうしあげる。なお、この答申をもって「将来構想委員会（仮称）」ワーキンググループは解散させていただくこととする。

以上

なお、当面の問題を解決し対策を講じることを最優先させるため、「将来構想委員会（仮称）」の設置は、来年度から構想して行きたいと考えています。あらかじめ会員各位のご理解・ご支持をお願いしておきます。

（本会副理事長）

第31回書学書道史学会総会（令和2年度総会）報告

事務局

令和2年度・第2回理事会（令和2年10月31日開催）での協議をふまえ、11月13日付で全会員宛に、「令和2年度総会の代替方法による審議・報告について（依頼）」、「議事次第」ほか、「審議のための書類」（〈資料1―1、2、3、4〉～〈資料5〉）、「報告のための書類」（〈資料6〉～〈資料9〉）、並びに表決のための郵便ハガキが事務局より送付され、11月27日までに（当日の消印有効）届いた返信の3分の2以上が賛成の場合は、審議事項につき承認が得られたものとして扱うこととなっていました。

審議事項は（1）「令和元年度会計決算報告、事業・活動報告、会計監査報告について」、（2）「令和2年度予算案、事業・活動計画案について」、報告事項は（1）「各局報告（学術局、編集局、事務局）」、（2）「その他」です。

12月はじめに事務局長、両副事務局長、毎日学術フォーラムの当学会事務局担当者により、郵便ハガキが整理・確認され、集計の結果、（1）については、賛成164、反対3、（2）については、賛成165、反対2でした（無記名のハガキをふくむ）。

令和2年度会計予算案
（2020年4月1日～2021年3月31日）

	項　目	予算額
収入の部	個人会員会費	2,500,000
	団体賛助会費	550,000
	本年度収入　合計	3,050,000
	前年度繰越金	8,298,140
	収入合計	11,348,140
支出の部	編集局経費	700,000
	「学会展望」準備費	100,000
	国際局経費	300,000
	国内局経費	300,000
	学術局経費	100,000
	研究局経費	900,000
	会報編集委経費	200,000
	ホームページ委経費	300,000
	会議費	30,000
	遠隔地役員交通費	400,000
	通信費	30,000
	事務消耗品備品費	10,000
	事務委託費	1,400,000
	東洋学･アジア研究連絡協議会	2,000
	予備費	6,576,140
	本年度経費　合計	4,772,000
	次年度繰越金	0
	支出合計	11,348,140

令和元年度会計決算報告書
（2019年4月1日～2020年3月31日）

	項　目	決算額
収入の部	個人会員会費	2,267,000
	団体賛助会費	550,000
	大会参加費	247,000
	大会懇親会費	280,000
	その他の収入	57,600
	本年度収入　合計	3,401,600
	損害補償預り金	8,001,000
	前年度繰越金	8,623,297
	収入合計	20,025,897
支出の部	編集局経費	585,983
	「学会展望」準備費	90,000
	国際局経費	0
	国内局経費	0
	大会運営費	200,000
	大会準備費	1,242,936
	大会懇親会費	350,000
	学術局経費	35,497
	研究局経費	600,000
	会報編集委経費	207,860
	ホームページ委経費	277,750
	会議費	59,799
	遠隔地役員交通費	0
	選管費	52,800
	名簿発行費	0
	通信費	251,348
	事務消耗品備品費	61,335
	事務委託費	812,717
	人件費	0
	東洋学･アジア研究連絡協議会	2,000
	予備費	0
	本年度経費　合計	4,830,025
	経費未払金	△ 2,473,006
	過年度修正	9,370,738
	次年度繰越金	8,298,140
	支出合計	20,025,897

『会報』第39号（令和2年5月15日発行）の「第31回書学書道史学会総会の扱いについて」（事務局報告）に記載の通り、盛岡大学で開催が予定されていた大会が来年度秋季に延期されたため、本年度の総会は特例の代替方法により実施されました。

尚、12月中旬に、手続き上のミスにより令和2年度・第1回理事会で承認された新入会員6名（学生会員5名、一般会員1名）の会員名簿未登録が判明したため、この6名に対しても代替総会の関係書類等を送付することになりました（12月15日開催の令和2年度・第3回理事会で報告）。こ

の6名に対しては、理事長からの詫び状を添えて12月21日付で送付し、「令和3年1月4日までに（当日の消印有効）」届いた郵便ハガキを有効として扱うこととしました。確認と集計の結果、（1）については、賛成2、反対0、（2）については、賛成2、反対0でした。

郵便ハガキの送付対象者は478（住所不明者を除いた実送付総数は432）、期限までに届いた郵便ハガキの総数は169。集計の結果、（1）については、賛成166、反対3、（2）については、賛成167、反対2となり、（1）、（2）の審議事項について、いずれも3分の2以上の賛成が得られました。よって第31回書学書道史学会総会（令和2年度総会）の審議事項については承認されました。以上、ご報告いたします。

（紙面には代替総会で送付した書類のうち、〈資料1―1〉「令和元年度会計決算報告書」、〈資料4〉「令和2年度会計予算案」の一部を抜粋して掲げました。）

事務局よりお願い

事務局

◆学生会員の「会員変更手続き」について

本学会では、学生会員の「有期会員制」を導入しています。この制度は学生会員（学生会費適用の方）が大学院を修了、または満期退学・中途退学、その他の理由により学籍を失った時（学生証の発給対象でなくなった時）に、「学生会員資格終了」とするものです。該当の方で、引き続き一般会員として留まる場合、会員変更手続き（「会員変更申込書」の提出）が必要です。とりわけ、今春に学生会員資格を失う方は、ご注意ください。「会員変更申込書」は、学会ホームページからダウンロードできます。会員変更手続きにより、自動的に一般会員資格が付与されます。

なお、「会員変更申込書」下の「紹介会員氏名」「役員推薦氏名」「理事会承認」各欄は記入不要です。「会員変更手続き」を含め、その他の問合せや書類送付先は、本会報一面の事務局（㈱毎日学術フォーラム内Eメール：maf-syogaku@mynavi.jp　担当：中川真氏）へお願いします。

◆会員名簿発行に伴う情報提供のお願い

昨年度、会員名簿が発行されました。会員各位の諸項目の加筆修正や、ご知友の会員の情報提供をお願いします。その他の問合せや情報提供は、本会報一面の事務局（㈱毎日学術フォーラム内Eメール：maf-syogaku@mynavi.jp　担当：中川真氏）へお願いします。

新入会員紹介

事務局

◆一般会員

清水文博（山梨大学）

◆学生会員

尹慶碩（大東文化大学大学院）
上野樹（大東文化大学大学院）
袁方（大東文化大学大学院）
白井椋（大東文化大学大学院）
陶坤（大東文化大学大学院）
徳永清志郎（大東文化大学大学院）
永田瞬（大東文化大学大学院）
兵頭稜典（大東文化大学大学院）
山田天斗（大東文化大学大学院）

※令和2年5月～令和2年12月に申請された方

事務局（㈱毎日学術フォーラム内）への電話でのお問い合わせにつきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための一部テレワーク実施に伴い、後日のご連絡となる場合がございます。
ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

各局報告

◆国内局

第31回大会（予定）のお知らせ

先の会報39号にてお知らせしました通り、本年度に予定しておりました第31回書学書道史学会大会は、来秋へと延期させていただきました。目下のところ、11月6日・7日にて盛岡大学での開催を計画しております。いまだ新型コロナウイルス感染症が収束を見ない中、全国規模での招集による大会の開催には、多くの課題が残っております。開催要項ほかの情報につきましては、次号以降の会報また学会ホームページでお知らせの内容を更新して参ります。

（局長　笠嶋忠幸）

◆国際局

今後の事業の策定について

国際博物館協会は、5月の時点で全博物館の83％が大幅に活動を縮小し、30％が職員の一部を解雇、13％が館の存続を断念したと発表しました。日本でも多くの博物館が閉館するなか、上海博物館は7月に18ヵ国の博物館を招き「博物館の力」と題したウェブ上のシンポジウムを開催、日本からは東博と九博が参加して、コロナ禍における博物館の可能性を議論しました。しかしコロナは欧州でも猛威をふるい、8月時のルーブル美術館はロックダウンの影響で50億円の損失と報道されています。一方、北京の故宮では紫禁城の建立600年を記念した3本の特別展「紫禁城六〇〇年」「蘇軾」「明代御窯磁器」が続き、台北の故宮博物院でも「国宝展」の連続企画が始まり、遼寧博でも「晋唐宋展品精選」を開催します。日本からも多くの人々が千載一遇の眼福を獲得したり、陝西省で新たに発見された顔真卿早年の墓誌を調査したりできたなら、さらなる学術界の進展があるかも知れません。今後の展開が全く見えてこない昨今ですが、数年後の中国展を目指して、粛々と準備を進めている博物館や美術館もあります。国際局としても、コロナ禍における新しい学会のあり方を皆様とともに模索してゆきたいと思います。

（局長　富田　淳）

◆学術局

J－STAGE

昨年10月末刊行の学会誌『書学書道史研究』30号の特別寄稿から書評までの11本について、令和2年度末までにJ－STAGE（ジェイ・ステージ）に登載できますよう努めています。公開時には学会ホームページでお知らせいたします。

東洋学・アジア研究連絡協議会

昨秋の総会資料6でお伝えしましたとおり、右記協議会の令和2年度総会および講演会は、コロナ禍により中止になりました。

WEB「学会名鑑」

日本学術会議事務局からの令和2年度実態調査に回答しました。協力学術研究団体に対する毎年の調査ですが、第30回大会記念に蘇士澍・中国書法家協会主席にご講演いただいたことなどを追記しておきました。

回答内容の一部は、WEB「学会名鑑」にて今春に内容が更新されるとのことです。

（局長　森岡　隆）

◆研究局

研究促進助成金制度について

2020年度分の募集に対し、研究計画書の申請が1件ありましたが、審査の結果、採択されませんでした。本年度は新型コロナウイルスの影響もあり、申請数が少なくなりましたが、次年度はふるって申請ください。

2018年度採択者（前川知里会員・井田明宏会員）の終了報告書に相当する「経費執行報告書（含む領収書）」を受理しました。両会員とも適正に経費（30万円）を執行しております。また、2019年度採択者（加藤詩乃会員・石永峰会員）の「中間報告書」を受理しました。両会員とも適正に研究計画を遂行中です。

2021年度分の募集要項(フォーマット)は、4月上旬に学会ホームページにアップロードする予定です。一点変更点がありますので事前にお知らせします。

〈選考結果の通知（傍線部変更点）〉

「2021年8月までに決定し、Eメールによって申請者に通知する。」

第16期研究局の役員は会報39号でお伝えした通り、河内利治・鈴木晴彦・福田哲之・権田瞬一・角田健一の5人体制です。引き続きよろしくお願いします。

（局長　河内利治）

◆編集局

「執筆要領」の一部改訂について

昨年11月に郵送した総会資料（資料7）で報告済みですが、本誌の「執筆要領」第1条を改訂いたしました。改訂後の「執筆要領」は、本学会のHP「投稿規程・執筆要領」でご確認ください。改訂の趣旨は、初発の投稿時の原稿について、鮮明に印刷した紙媒体（モノクロ印刷に限る）3部を提出する、というものです。CD、USBメモリ等の電子媒体の提出には及びません（電子媒体は本誌掲載論文にのみ改めて提出を求めます）。以後、投稿をご予定の方は、ご留意くださるようお願いいたします。

（局長　菅野智明）

◆事務局

令和元年度 事業活動報告

5月20日　第37号《会報》発行及び発送
6月1日　令和元年度研究促進助成金制度申請募集（～7日）
6月30日　令和元年度第1回常任理事会　（於大東文化会館会議室）
10月24日　平成30年度決算会計監査　（於大東文化会館会議室）
10月26日　令和元年度大会〈学会設立30周年記念大会〉第1日
令和元年度第1回理事会
令和元年度総会
記念シンポジウム、記念講演会
（於東京国立博物館平成館講堂）
大会参加者懇親会　（於グレースバリ上野公園店）
10月27日　令和元年度大会〈学会設立30周年記念大会〉第2日
研究発表、招待発表　（於東京国立博物館平成館講堂）
10月31日　第29号『書学書道史研究』発行及び発送
1月27日　第38号《会報》発行及び発送
2月21日　第16期役員選挙（投票終了）
2月24日　令和元年度第2回常任理事会（臨時）
（於大東文化会館会議室）
2月24日　選挙管理委員会　（於大東文化会館会議室）
3月29日　令和元年度第2回理事会（第15期・第16期役員合同）
（メール会議）

令和2年度 事業活動計画（案）

4月12日　令和2年度第1回常任理事会　（メール会議）
4月23日　令和2年度第1回理事会　（メール会議）
5月15日　第39号《会報》発行及び発送
6月1日　研究促進助成金制度申請募集（～7日）
6月28日　令和2年度第2回常任理事会
（於新宿ミライナタワー・マイナビルーム）
8月17日　令和元年度決算会計監査
（於一ツ橋パレスサイドビル・ミーティングルーム）
9月13日　令和2年度第3回常任理事会　（オンライン会議）
10月31日　令和2年度第2回理事会（定例）　（オンライン会議）
10月31日　第30号『書学書道史研究』発行及び発送
11月13日　令和2年度総会（～27日）　（書類送付による審議・報告）
12月15日　令和2年度第3回理事会　（メール会議）
〔以上は執行済み〕
12月31日　第31号『書学書道史研究』投稿申込締切
1月中旬　第40号《会報》発行及び発送
3月31日　第31号『書学書道史研究』投稿原稿締切

海外会員のクレジットカード決済導入

海外在住の会員を対象に、クレジットカードによる年会費の納入が可能になりました。クレジットカード決済を希望される方は、事務局（㈱毎日学術フォーラム内Eメール：maf-syogaku@mynavi.jp　担当：中川真氏）までご連絡ください。

（局長　橋本貴朗）

令和2年度本学会関係者科学研究費採択一覧

事務局

本会会員の採択課題に限ったが、会員が研究分担者で、研究代表者が非会員である場合には、※を付して代表者を末尾に付記した。複数の会員が関わる同課題に関しては、当該課題のもとに代表者と分担者とを併記した。なお、所属の後の数字は、令和2年度のみの補助金の配分額。

基盤研究（S）継続（平成30～）　シナ＝チベット諸語の歴史的展開と言語類型地理論　大西克也（東京大学）※代表：池田巧（京都大学）30,290千円

基盤研究（A）継続（令和元～）　唐絵の中の朝鮮絵画―半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究―　板倉聖哲（東京大学）※代表：井手誠之輔（九州大学）9,490千円

基盤研究（A）新規　「奈良朝勅定一切経」の総合的研究―漢文仏教テクストの資料的基盤の再構築に向けて　赤尾栄慶（国際仏教学大学院大学）※落合俊典（国際仏教学院大学）11,050千円

基盤研究（B）継続（平成29～）　近代東アジアにおける「書壇」形成の地域比較研究　代表：菅野智明（筑波大学）　分担：金貴粉（大阪経済法科大学）、下田章平（相模女子大学）、髙橋利郎（大東文化大学）、髙橋佑太（二松学舎大学）、矢野千載（盛岡大学）4,940千円

基盤研究（B）継続（平成30～）　泊園書院を中心とする日本漢学の研究とアーカイブ構築　太田剛（四国大学）※代表：吾妻重二（関西大学）3,900千円

基盤研究（B）継続（令和元～）「儒教美術史」構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化　尾川明穂（筑波大学）※代表：水野裕史（筑波大学）2,730千円

基盤研究（B）継続（令和元～）　敦煌書儀・六朝尺牘文献の古代日本への受容実態の展開　小林比出代（信州大学）※代表：西一夫（信州大学）4,290千円

基盤研究（B）継続（令和元～）　道教の洞天思想における聖地と巡礼の調査研究およびその東アジア思想文化史への影響　土屋昌明（専修大学）5,720千円

基盤研究（B）継続（令和元～）　戦国秦漢簡牘の総合的研究―安大簡・清華簡・上博簡・北大簡を中心として―　福田哲之（島根大学）※代表：湯浅邦弘（大阪大学）2,860千円

基盤研究（B）新規　美術鑑賞学習指導体系の構築に関する実践的研究　萱のり子（東京学芸大学）※代表：松岡宏明（大阪総合保育大学）5,330千円

基盤研究（B）新規　中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究　代表：富田淳（独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館）分担：鍋島稲子（独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館）、六人部克典（独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館）3,510千円

基盤研究（C）継続（平成29～）『蒼頡篇』を中心とした秦漢簡牘文字に関する基礎的研究　福田哲之（島根大学）780千円

基盤研究（C）継続（平成30～）　日本の篆刻に関する実証的研究―歴史・技法・鑑賞の研究から科学的解明を目指して―　神野雄二（熊本大学）910千円

基盤研究（C）継続（平成30～）　世界標準のLiteracy育成プログラム開発のための基礎研究―時間・身体・過程―　鈴木慶子（長崎大学）※代表：千々岩弘一（鹿児島国際大学）910千円

基盤研究（C）継続（平成30～）　古代エジプト聖刻文字碑文の言語記述とＩＩＩＦ画像を利用した情報共有システムの開発　中村覚（東京大学）※代表：永井正勝（東京大学）520千円

基盤研究(C)継続(令和元～)「言語力」及び「表現力」を育成する書字教育カリキュラムの開発　青山浩之（横浜国立大学）1,170千円

基盤研究（C）継続（令和元～）　対話を促す言語文化教材の開発―日本語の平仮名の場合―　萱のり子（東京学芸大学）、鈴木慶子（長崎大学）※代表：藤本朋美（南九州大学）1,820千円

基盤研究（C）継続（令和元～）　関西中国書画碑帖コレクション形成の研究―未公刊資料の分析を中心として―　下田章平（相模女子大学）910千円

基盤研究（C）継続（令和元～）　対机時における姿勢・執筆法と学習状況との関連に関する基礎研究　鈴木慶子（長崎大学）※代表：小野瀬雅人（聖徳大学）910千円

基盤研究（C）継続（令和元～）　近世中国の刑罰制度に関する総合的研究―軍制との関係を中心として―　中村覚（東京大学）　※代表：徳永洋介（富山大学）1,430千円

基盤研究（C）継続（令和元～）　水運を利用した南北朝から隋朝への石刻書法の伝播―篆書の墓誌蓋に注目して―　東賢司（愛媛大学）1,560千円

基盤研究（C）継続（令和元～）　水書用筆を活用したＩＣＴ教材及び授業開発と水書用筆を組み入れた書写指導の理論構築　樋口咲子（千葉大学）130千円

基盤研究（C）継続（令和元～）　日本の楷書筆順における行書系筆順の定着過程に関する研究　松本仁志（広島大学）780千円

基盤研究（C）新規　近代朝鮮における「書」の創出と展開―官僚出身書家の動向を中心に―　金貴粉（大阪経済法科大学）1,820千円

基盤研究（C）新規　書字基礎データ採取のための調査研究　鈴木慶子（長崎大学）2,080千円

基盤研究（C）新規　近世書論を基盤とする「日本書論史」の展開　永由徳夫（群馬大学）1,170千円

若手研究（B）継続（平成29～）　日中比較による中国写字書法教育史の基礎的研究―中華人民共和国建国を起点として―　草津祐介（都留文科大学）390千円

若手研究　継続（平成30～）　書論からみた清代書法教育の基礎的研究　髙橋佑太（二松学舎大学）910千円

若手研究　継続（令和元～）　書に関する説話資料の総合的研究　成田健太郎（埼玉大学）650千円

若手研究　新規　書字教育の基礎概念としての字体・字形とその歴史的変遷　杉山勇人（鎌倉女子大学短期大学部）910千円

挑戦的研究(萌芽)継続(令和元～)　ポートフォリオ評価を用いた教職の高度化と教師教育者の養成に関する開発的研究　松本仁志（広島大学）※代表：吉田成章（広島大学）1,950千円

視点

文化財としての近代の書

髙橋　利郎

近年、『書学書道史研究』誌上に近代研究が数多く見られるようになった。作家や作品に関する研究よりも、展覧会制度や公教育における書の位置付け、コレクションの形成、日中・日韓交流といった、書の周縁を丹念に掘り起こした論考が目立つように思う。これまでにない切り口から浮き彫りにされる種々相に、そんな事情があったのかといちいち感心するばかりである。

新資料の紹介も相次いでいる。甲賀市教育委員会から刊行された『巌谷一六日記』をはじめとする一六関係の資料集、関西大学で開催された同名の展覧会の記念論文集として刊行された『山本竟山の書と学問』などは、杉村邦彦先生のこれまでの蓄積と求心力によって成るところ大と言えよう。こうした研究が今後の近代研究を底支えするであろうことも想像に難くない。

維新から数えて150年以上、戦後もすでに75年以上を経た今日、こうした近代研究は書学書道史研究の上でますます重要なテーマとなっていくのであろう。

ところで、研究の場においては高い関心を集めている近代の書だが、文化財として、ということになるとまだまだその評価は揺らいでいるのかもしれない。

国指定の重要文化財を見渡してみると、明治以降の書跡・典籍の指定品は寺院関係のものが僅かに見られるだけで、書学書道史学会で頻繁に扱われるような、いわゆる書作品は見当たらない。江戸の後半期の書跡も少なく、新潟・阿部家の良寛コレクションが確認できる程度で、幕末の三筆も指定されていない。これが絵画や工芸となるとかなりの数が指定されていて、菱田春草や横山大観、速見御舟、岸田劉生、宮川香山、板谷波山など近現代を代表する作家の名前を見ることができる。昭和の作品もすでに対象であり、上村松園作「序の舞」や福田平八郎作「漣」などが重要文化財に指定されている。

現在の指定状況を見る限り、江戸の唐様以降、近現代の書作品に関しては指定の網がかかっていないとみて大きな過ちはあるまい。書に備わっている大衆性や、絵画や彫刻を中心とする近代美術との距離感が、こうした状況を生み出したのだろう。とはいっても、いつまでもこのままでいいとは思えない。後世、近代の書を振り返ろうとしたときに、肝心な作品が消え失せている、などということのないように保護を考えていかねばなるまい。大阪中之島美術館所蔵の三輪田米山や徳島県立文学書道館所蔵の中林梧竹、彦根城博物館や書壇院の日下部鳴鶴など、魅力的なコレクションも多い。前述の巌谷一六や山本竟山の資料、秋山碧城や西川春洞の資料も意義深い。まずは、こうした作品群から保護の網をかけられないものだろうか。

日本の書道文化をユネスコ無形文化遺産に、という動きも徐々に前に進んでいる。今日の書道文化が伝統的な文化遺産であると主張するためには、古代から連続する書といういとなみを確認できる、ということが要件になるだろう。書が絶え間なく続く魅力的ないとなみであることは、今日に伝わる名筆がストレートに物語っている。間断なくこれを未来に繋げていくことは、それぞれの時代を生きる者の責務であるに違いない。これに似たことはことあるごとに各所で話し、綴っている。場が与えられたことから、ここでも改めて記しておきたいと思う。

談話室

和風清穆

大迫　正一

今年度4月より、安田女子大学でお世話になることになり、広島での新生活が始まった。しかしながら、年度当初からオンラインでの授業。顔と名前が一致しないままの授業開始は、教員生活の中でも勿論初である。講義系の授業は比較的作成しやすいが、実技系の授業は、映像が使えない環境ではほとんど成立しなかった。工夫を凝らす間もなく、6月より対面授業となり安堵したのだが、オンライン授業が続いていたらと考えるとゾッとする。ＩＣＴ機器を取り入れた実技の授業の方法が、今後充実していくことを期待してやまない。現在第3波の真っただ中。オンライン授業が再開したらと不安になるが、とりあえず今年度を皆健康で終えられることを願うばかりである。そして普通の日常生活が訪れ、新しい街に馴染める日を心待ちにしている。

コロナ禍の中で

小倉　太郎

縁あって、今年度から聖徳大学で専任として勤務することになった。折しも、コロナウイルスの感染が拡大し、授業はオンラインで実施との方針が下された。これ迄必要に迫られず、自分のパソコンすら所持していない身としては、甚だ辛い船出となった。

勤務校では、マイクロソフト社のTeamsを使用して双方向型の授業を行なうことになり、幾度かの講習会を経て、何とかスタートすることができた。実際の授業では、毎回学生に課題を提示し、画面を通しての添削指導を実施。資料等は事前にファイルにアップし、授業中には画面上で共有できる等の利点もあった。

書の学習上最も大切な双方の書く姿を、直接対面で見る事ができない点に不満が残るものの、コロナ終息後の授業形態の一つとして、ある種、方向性が見えたような気がする。

影写雑感

神戸　雅史

東京大学史料編纂所史料保存技術室に影写担当として入所して、2年が経とうとしています。影写の技術職員としてはまだまだ未熟であり、試行錯誤の日々を過ごしています。

影写とは「古文書等を、筆・墨・和紙を用いて、文字をそっくりそのまま、ほぼ一筆で写し取り、筆勢、虫食い・墨の濃淡・にじみ・本紙の輪郭などまで忠実に手作業で再現する特殊技法」とされています。

今日の我々の筆の持ち方や体勢等は、影写の対象となる史料が書かれた当時とは多くの場合で異なります。この差異をどのように埋めていくかを考えていく必要があります。

書論や絵画史料等を鑑み、更には線、連綿、行、面等といった観点、起筆、運筆…と挙げたらきりがありませんが、文字が生み出された経緯を総合的に考察し、筆跡研究の発展に努めていきたいと思います。

阿波藍

辻　尚子

授業の一環で制作していた藍染ハンカチーフが仕上がった。勤務する四国大学には「藍の家」という施設があり、本年3月で30年を迎える。

藍染は、染液につける作業と空気酸化させる作業を繰り返すことで色濃くなっていくが、薄色から濃い色まで実に多彩である。一番濃い勝色（かちいろ）と呼ばれるものは黒に近く、武士が着用したといわれる縁起の良い色らしい。今回は揮毫した書を型取り、布の上に抜染糊を置いて白抜きにする方法で文字を浮かび上がらせた。学生は大喜びであった。

東京五輪・パラリンピックの公式エンブレムに藍色が採用されたことを契機に、阿波藍熱は県内で盛り上がり、その後文化庁の日本遺産に認定された。藍には抗菌作用があり、肌にも優しいとのこと。藍布のマスクもお洒落な人気アイテムとなっている。終息を願うばかりである。

編集後記

◆対面でしか伝えられないことや、文字や画像の方が伝わりやすいこと等いろいろと考える機会の多い半年ではありました。書学の可能性についても会って話してみたいものです。（小川博章）

◆感染症が全く収束しないまま、新年を迎えましたが、博物館や美術館で何も気にすることなく作品を鑑賞していたことが懐かしく感じられます。名品をゆっくり鑑賞することがどれほど至福の時間であったのか痛感します。（金子　馨）

◆『本草堂江戸噺』に「鵬斎とおでん屋」が収録されています。連日の感染報道やお仕事に疲れたら、鵬斎の落語で息抜きを。ユーチューブで「柳家さん生　亀田鵬斎」とご検索ください。余談ですが、私はおでんを山葵で食べます。（亀田絵里香）

◆昨年は博物館などへ足を運ぶ機会が大幅に減った一年でした。そのため実物の古筆が持つ絶妙な墨色に改めて魅せられました。（野中直之）

◆業務の一環で職場の近隣の小学校で書き初め指導を担当しました。45分という短い時間でしたが、文字や手書きへの興味を抱いてもらいたい一心で取り組みました。ここから「先生の書き初め指導がきっかけで書道をはじめました」という学生が出てきてくれたら、これ以上の喜びはありません。（藤森大雅）

◆体調管理の難しさを痛感する日々です。皆様、何卒ご自愛ください。（尾川明穂）